

株式会社エイチ・ユウ・シー 社内研修（勉強会）報告

『効き脳を知って、ゲームで体感。今いるメンバーだけで
継続して成果を出す方法を学ぼう』

（講師：鈴木 早苗氏

鈴木社会保険労務士事務所）

- ・ 日時 2017年10月12日（木）19時～21時
- ・ 場所 HUG事務所

【研修内容】

今回の研修は、社会保険労務士の鈴木先生を講師にお迎えして会社組織内での仕事の取り組み方、周りの仕事の進捗状況を意識して、皆で協力しながら成果をあげられるような方法を学ぶ研修を行いました。研修の前にアンケートによる「効き脳診断」を受けて、個々の思考の特性を知り、グループワークを通して個人の強みや長所を最大限に活かす組織の在り方を学びました。

【研修の成果／感想】

はじめに鈴木先生より「効き脳診断」による「効き脳」についての説明をいただきました。「効き脳」とは、診断のアンケートの答えから導き出された個人の思考特性で、「利き手」があるように思考にも「効き（利き）脳」があるということ。「ハーマンモデル」といわれる理論によって効き脳の特性をタイプ別に分けると、以下の4つのタイプになるそうです。

《効き脳のタイプ》

Aタイプ「理論・理性脳」 Bタイプ「堅実・計画脳」

Cタイプ「感覚・友好脳」 Dタイプ「冒険・創造脳」

ちなみに、今回参加したスタッフ（10名）は、皆Cタイプの数値が多い結果が出ていました。Cはコミュニケーションを積極的にとって、人の気持ちを察しようとする特徴があります。医療・福祉関連の職場ならではの特性ともいえるでしょうか。タイプにはそれぞれ共存や対照などの関係があり、コミュニケーションの仕方などによって共存や相乗、補完関係が築けるそうです。

こうした効き脳の特性をふまえて、二つのチームに別れてグループワークを行いました。制限時間内に課題を解決するゲームで、各自に配られたカードの情報をチーム内で共有して、限られた情報から設問の答えを導きだすものでした。片方のチームが正解、もう一方は不正解の結果となりました。振り返りなかで、個々人の役割をそれぞれが自覚できていたか、他者の効き脳の特性を把握して適切なコミュニケーションをとりながら、課題解決に向かっていたかななどのポイントがあげられました。

鈴木先生によると今回のゲームによって、「チームビルディング」という組織創りを仮想体験できるとのこと。「チームビルディング」とは個人の強みや長所を最大限に活かす組織創りのことで、3つの力（「1人材力」「2組織力」「3関係力」）を強化して課題を解決していくことだそうです。「効き脳」タイプによる適材適所や各タイプ間の補完関係を知り、それに適したコミュニケーションなどを通して、各自のやる気と能力を引き出し、チーム一丸となって課題解決を行う体験ができました。

実際にゲームをやってみて、自分の特性の自覚や、他者の特性に合わせたコミュニケーションの必要性を実感できたと思います。今回の研修では、ゲームを通して「チームビルディング」を理論だけではなく実感することができました。学んだことを明日からでも日常業務のなかで実践できるような貴重な経験になったと思います。

